

「3つの『シェイクスピア・ハンドブック』をめぐって」（第3回駒澤大学シェイクスピア・インスティテュート研究会、平成8年7月）

福田恆存編『シェイクスピア ハンドブック』（三省堂）と高橋康也編『シェイクスピア・ハンドブック』（新書館）とLEVI FOX編『シェイクスピア・ハンドブック』（THE BODLEY HEAD）の3つを比較することで、視点の違いや今後の展望について論じた。特に「日本におけるシェイクスピア」「映像のシェイクスピア」に関する取扱を見れば、その視点は明かであり、高橋康也編とLEVI FOX編のものはより視点が広がっていることがわかる。しかし、日本のハンドブックとしては日本人として「日本におけるシェイクスピア」についての取り上げ方が今後の大きな課題となることを指摘した。